

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2025年 6月 17日

香川県知事 殿

提出者

住 所 香川県綾歌郡綾川町羽床上527番地1

氏 名 テーブルマーク株式会社 綾上工場

工場長 篠原 篤

電話番号 087-878-1700



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

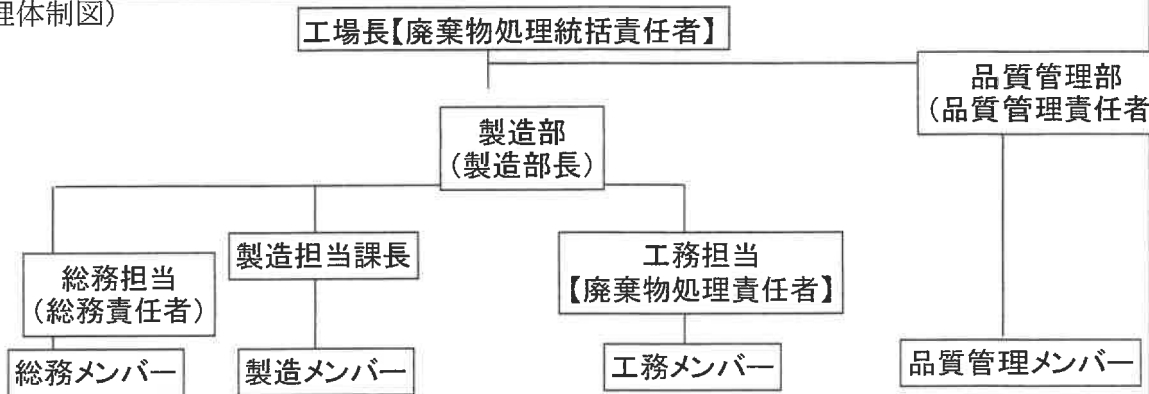
事業場の名称	テーブルマーク株式会社 綾上工場
事業場の所在地	香川県綾歌郡綾川町羽床上527番地1
計画期間	2026年4月1日から2027年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	製造業
②事業の規模	製造高 3269.8百万円(2024年度)
③従業員数	80名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度(2024年度)実績】						単位:t	
産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
排出量	436.03	185.35	42.88	46.51			
①現状							
(これまでに実施した取組)							
<ul style="list-style-type: none"> ・製造工程でのロス削減し、動植物性残渣、廃プラスチック類の発生抑制を行ってきた。 ・清掃業者との打ち合わせ、指導により排水処理工程への残渣流入を減少させた。 ・排水処理薬剤変更により有機汚泥の凝集率を向上させた。 							
【目標】						単位:t	
産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
排出量	392.43	166.82	38.60	41.86			
②計画							
(今後実施する予定の取組)							
<ul style="list-style-type: none"> ・製造工程でのロス削減し動植物性残渣の発生を抑制する。 ・動植物性残渣の分別を従業員全員で行い、発生抑制につなげる ・下水放流量を増やすことによりスカムの除去率、余剰汚泥を減少させる。 							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物性残渣については分別し、家畜の飼料にしている。 ・廃プラスチックに関しても分別し、PE、PPは再利用業者へ引き渡している
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物性残渣や廃プラスチック類の再成利用がよりできるよう分別をさらに強化し、ゼロミッションを目指す。 ・原料由来廃プラスチックが増加しているため、水切、分別で減量化を行う。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度(2024年度)実績】						単位:t	
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0			
	(これまでに実施した取組) ・特になし							
②計画	【目標】						単位:t	
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0			
	(今後実施する予定の取組) ・特になし							

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度(2024年度)実績】						単位:t	
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0			
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	348.82	0	0	0			
	(これまでに実施した取組) ・汚泥脱水機 減速機の交換、ろ布の定期的な洗浄・交換、薬剤の適時投入等による脱水効率の向上に努めてきた							
②計画	【目標】						単位:t	
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0			
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	313.94	0	0	0			
	(今後実施する予定の取組) ・製造工程から排水溝への流入残渣を減少させ、加圧浮上装置からのスカムを抑制する ・下水放流量を増やすことにより排水処理の負荷を軽減させ余剰汚泥の発生量を削減する							

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(2024年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0			
(これまでに実施した取組) ・特になし								
②計画	【目標】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0			
(今後実施する予定の取組) ・特になし								

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(2024年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物			
	全処理委託量	348.82	148.28	34.31	0			
	優良認定処理業者への処理委託量	0	0	0	0			
	再生利用業者への処理委託	348.82	125.74	0	0			
	認定熱回収業者への処理委託	0	0	0	0			
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	22.54	34.31	0			
(これまでに実施した取組) ・動物性残渣や廃プラスチック類についてはその種類、形態に応じて分別し、再生利用業者への委託や有価買取業者への売却に努めてきた								

【目標】		単位:t					
		産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	
②計画	全処理委託量	313.94	133.45	30.88	0		
	優良認定処理業者への処理	0	0	0	0		
	再生利用業者への処理委託	313.94	113.17	0	0		
	認定熱回収業者への処理委託	0	0	0	0		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	20.28	30.88	0		
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別をより強化し再生利用業者や有価買取業者への委託割合を増やし、産業廃棄物処理委託量の削減を図る。 							
※事務処理欄							